

山形保険医新聞

Yamagata medical practitioners newspaper

発行
山形県保険医協会
〒990-0043 山形市本町二丁目1の2フコク生命ビル
電話 023 (642) 2838
FAX 023 (642) 2839
購読料 円共1ヵ月 500円
印刷 コロニー印刷
第528号

11月号 TOPICS

- 2面…東北6県経税共同アンケート
- 3面…個別指導の指摘事項(医科)
- 4面…個別指導の指摘事項(歯科)
- 5面…ライオンの街と旅心
- 6面…会員訪問



県の担当者と懇談(県庁)

子ども医療費について県の担当者は、「高校生まで無償化を引き続き政府に働きかけていく」と回答。また、県独自の助成拡充に関しては、「財源が伴うため難しい問題だが検討していく」とした。山形県では、今年度は県内全市町村で18歳まで何らかの助成が実施されることとなった。一方で、中学卒業から18歳までの助成対象を入院のみとしている自治体もあることから、居住する自治体で格差が生じないように、県として対象の引き上げを行うよう要請した。

妊産婦医療費助成制度については、「政府の動向を注視していく」との回答だった。妊娠後から産後一定の期間まで、診療科に関わりなく保険診療の自己負担分を助成する「妊産婦医療費助成制度」は、全国で240自治体の実施している。同制度を県レベルで実施しているのは全国で5県しかないが、そのうちの2県が青森県と岩手県となっている。同じ東北として山形県でも制度を創設するよう訴えた。

高齢者への補聴器購入費の助成については、「引き続き政府の動向を注視し、全国一律の

県に要請 社会保障の充実求める

山形県保険医協会 2023年後期 医療安全管理
院内研修用テキストとWeb配信のご案内

医療安全管理
医療機関におけるサイバーセキュリティ対策
動画解説………
全国保険医団体連合会 事務局主査
岩下 洋 氏

院内感染対策
感染性廃棄物の適切な処理方法
動画解説………
ICD(インフェクションコントロール)認定医
山形県保険医協会理事長
中島 幸裕

動画時間 医療安全管理 約55分、院内感染対策 約15分
視聴期間 **11月1日(水)▶11月30日(木)**
視聴方法 **Web 配信方式**
インターネットによる視聴環境をご準備ください
視聴方法、ID、パスワードはテキストをご覧ください

対象 **会員医科・歯科診療所、病院の全ての職員**

テキスト、視聴とも
無料です (要申込)

A4版

協会は年2回、医療安全管理対策テキストを作成し、解説動画をWeb配信しており、11月1日より23年後期分を配信している。今回は、医療安全管理を全国保険医団体連合会事務局主査の岩下洋氏が、院内感染対策をICD認定医である中島幸裕理事長が解説した。

医療安全管理は、4月から医療法が改定され対策が義務化された「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策」をテーマに、法的根拠や立入検査時のチェックリストの解説、具体的な対策方法などを説いた。

テキストは申し込みのあった会員医療機関に無料で配付し、10月末現在で2381冊が活用されている。

院内感染対策は、前回の視聴者アンケートで要望が多かった「感染性廃棄物の適切な処理方法」をテーマに、感染性廃棄物の分別や管理方法について解説。立入検査でも指摘・改善を求められる場合があるため、研修を通して再確認いただきたい。

テキストは申し込みのあった会員医療機関に無料で配付し、10月末現在で2381冊が活用されている。

解説動画は協会ホームページから視聴できる(ID、パスワード、視聴方法はテキスト表紙裏に掲載)。配信期間は11月30日までを予定している。視聴後はテキスト巻末の研修記録欄に記入して立入検査に備えていただきたい。なお、今後の企画の参考のため、視聴者アンケートにもご協力をお願いしたい。

2023年後期 医療安全管理 サイバーセキュリティ対策をWeb配信

とは、「包括的な」、「全てを含んだ」という意味で、障がいのあるなしに関係なく、誰でも遊べることを目指した公園のことです。◆山形市にも、昨年の4月に「シエルターインクルーシブプレイス コパル」が片谷地にオープンしました。すべての子どもたちが互いを認め合い楽しく遊べる施設をめざしているそうです。◆一方、教育の現場では、ハンディのある者だけが集められ、集団が形成されています。聾学校・盲学校・特殊学級など「他と異なる者が集められる」と、他とは異なりません。◆互いを認め合う機会が奪われ、決して「インクルーシブ」とは言えません。◆実際には、ハンディのある方が生活するのは、やはりハードルが高いと思います。◆「障がい一やヘレン・ケラーのように障がいがあっても素晴らしい功績を残した先人もいます。◆世界では、性別や人種、国籍、宗教の違いなどで争いが絶えず、目を覆いたくなるようなニュースが飛び込んできます。いずれも根底には異なる背景や特性を持つ人々が互いを認められないことがあるように思います。違いを受け入れる「インクルーシブ」を体現し、共に生きる環境を作っていくことが、これからの時代で一層重要になるのではないのでしょうか。(H)

インクルーシブ公園という言葉を聞いたことがありますか？ インクルーシブ(inclusive)とは、「包括的な」、「全てを含んだ」という意味で、障がいのあるなしに関係なく、誰でも遊べることを目指した公園のことです。◆山形市にも、昨年の4月に「シエルターインクルーシブプレイス コパル」が片谷地にオープンしました。すべての子どもたちが互いを認め合い楽しく遊べる施設をめざしているそうです。◆一方、教育の現場では、ハンディのある者だけが集められ、集団が形成されています。聾学校・盲学校・特殊学級など「他と異なる者が集められる」と、他とは異なりません。◆互いを認め合う機会が奪われ、決して「インクルーシブ」とは言えません。◆実際には、ハンディのある方が生活するのは、やはりハードルが高いと思います。◆「障がい一やヘレン・ケラーのように障がいがあっても素晴らしい功績を残した先人もいます。◆世界では、性別や人種、国籍、宗教の違いなどで争いが絶えず、目を覆いたくなるようなニュースが飛び込んできます。いずれも根底には異なる背景や特性を持つ人々が互いを認められないことがあるように思います。違いを受け入れる「インクルーシブ」を体現し、共に生きる環境を作っていくことが、これからの時代で一層重要になるのではないのでしょうか。(H)